

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会

(事務局：JA全農ふくれん営農開発部営農総合課)

(公印省略)

営農情報 2

麦の適期収穫に向けた今後の管理について

今年産麦は、登熟期の気温が高く推移しているため、成熟期が平年よりやや早く、5月中旬から大麦・はだか麦の収穫が開始される予定です。しかし、今後も数日周期で天気が変わり、平年に比べて晴れの日が少ないと予想されています。また、一部のほ場では赤かび病や倒伏の発生が見られており、品質の低下が懸念されます。

実需者の求める品質の確保に向けて、下記の事項に留意しながら、適期収穫に努めて下さい。

1 排水対策

円滑な収穫作業の実施や倒伏発生ほ場での品質低下防止のため、ほ場表面に水が停滞しないよう、うね溝等の溝さらえや排水口の整備を行いましょう。

2 適期収穫のための体制整備

- (1) カントリーエレベーターやライスセンターの計画的な荷受け体制を整えましょう。
- (2) 登熟状況や倒伏等の被害状況をほ場ごとに把握することに努め、円滑に収穫作業を進めるため、あらかじめ刈取り計画の作成やコンバインの点検・整備を行いましょう。
- (3) 収穫日の見極めとそれに合わせた作業員確保のため、**週間天気予報等の最新の気象情報の把握に努めましょう。**

3 収穫、荷受けに関する留意点

- (1) **早刈りを避け**、収穫期を迎えたほ場から、順次速やかに収穫しましょう。
- (2) **赤かび病の多発ほ場や倒伏程度が大きいほ場等、品質低下の恐れがあるものは、仕分け集荷を行いましょう。**また、収穫した麦の水分が高い場合は、収穫後に穂発芽の発生や赤かび病によるかび毒の蓄積が生じることがあるため、直ちに乾燥しましょう。
- (3) 防除を行ったものの赤かび病の発生が多い場合や、著しい倒伏が発生して収穫が困難と思われる場合は、速やかに農業共済組合に相談しましょう。

以上